

「阿見町立学校再編に関する基本方針」

修正版（H26 年度児童・生徒数）

平成 26 年 3 月

阿見町教育委員会

目 次

1. 基本方針の策定にあたって	1
2. 小中学校の現状	2
3. 阿見町教育振興基本計画	7
4. 児童・生徒数の将来推計	8
5. 町立学校再編に関する住民意向	10
(1) 保護者を対象としたアンケート調査の結果	12
(2) 児童・生徒を対象としたアンケート調査の結果	16
(3) 意見交換会の結果	21
(4) 住民意向のまとめ	22
6. 学校の適正規模	23
(1) 学校規模による課題	23
(2) 学校規模等の基準	26
7. 阿見町立学校再編の基本方針	27
(1) 学校規模の基本的な考え方	27
(2) 望ましい学校規模	27
(3) 適正配置の基本的な考え方	28
(4) 適正規模・適正配置を進めるにあたっての配慮	29
(5) 今後の進め方	29

1. 基本方針の策定にあたって

阿見町では、住民すべての手で阿見町の教育を支えていくとの理念を掲げ、家庭、地域、学校、行政が手を携えて、まちぐるみ、地域ぐるみで育てる教育を推進しております。

こうした中、わが国では少子高齢化の進展に伴い人口が減少し、経済分野における活力の低下や社会保障の負担増と合わせて、子どもや子育て環境への影響が懸念されています。当町においても、全体の児童・生徒数は減少傾向にありますが、人口増加地区では児童・生徒数が急増しています。こうした学校規模の変化は、児童・生徒の教育条件、教育環境、学校運営等にさまざまな影響を及ぼしています。

さらに、新学習指導要領の実施、ICT社会の到来など、学校を取り巻く社会環境も大きく変化しており、児童・生徒にとって望ましい教育環境の整備や学習施設の充実を図っていく必要があります。

これらの問題の解決に向けて、地域・保護者・学校関係者の代表や有識者等で構成する「阿見町立学校再編検討委員会」を組織し、町立学校の適正な学校規模や適正配置など、学校再編に関する基本方針を策定することとしました。

本方針にもとづく学校再編の推進にあたっては、豊かな自然環境に生まれ培われてきた町の風土・歴史・伝統を踏まえるとともに、保護者、地域住民、学校、教育委員会が協議して合意形成を図りながら、次代を担う子どもたちの「生きる力」を育てる教育環境の整備を目指します。

2. 小中学校の現状

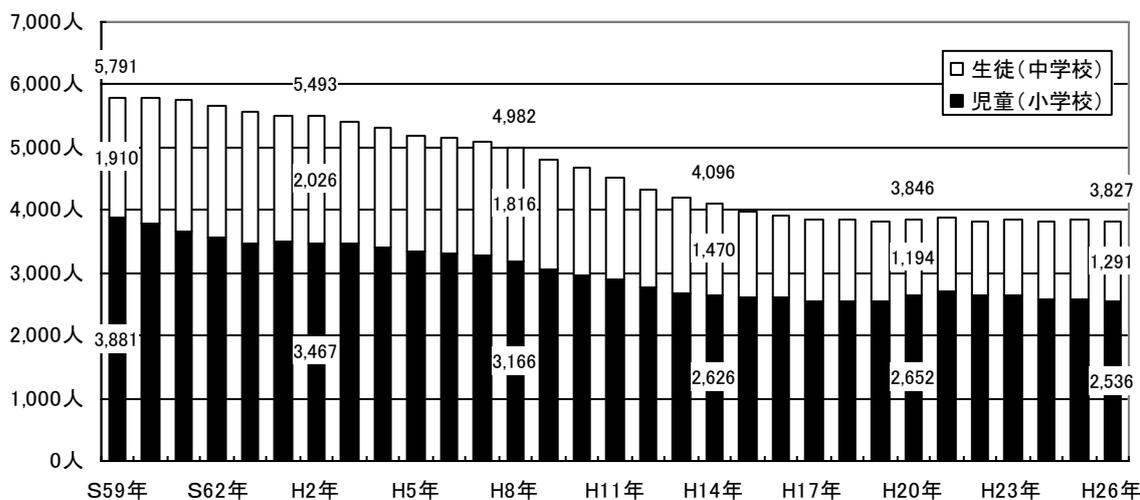
現在、阿見町の町立学校は小学校 8 校、中学校 3 校があり、平成 26 年 5 月 1 日現在、児童数は 2,536 人、生徒数は 1,291 人となっています。

ピーク時である昭和 59 年の児童・生徒数と比較すると、児童数は 3,881 人から 1,345 人の減少（△35%）、生徒数は 1,910 人から 619 人の減少（△32%）となり、合計すると 1,964 人減少（△34%）しています。

小学校は、本郷小が児童数 701 人・学級数 27 で最も規模が大きく、阿見小と阿見第一小も児童数は 500 人を超えています。一方、実穀小、吉原小、君原小の 3 校は児童数が 100 人を下回り、一学年あたり 1 学級となっています。

中学校は、竹来中が生徒数 482 人・学級数 16 で最も規模が大きく、次いで阿見中（生徒数 468 人・学級数 16）、朝日中（生徒数 341 人・学級数 12）の順となっています。

図 1 児童・生徒数の推移



※学校基本調査(各年 5 月 1 日現在)

表 1 学校別児童・生徒数, 学級数

(単位: 人, 学級)

		阿見小	実穀小	吉原小	本郷小	君原小	舟島小	阿見第一小	阿見第二小	計
小学校	児童数	516	89	66	701	78	365	507	214	2,536
	学級数	19	7	7	27	7	13	21	9	110
		阿見中	朝日中	竹来中	計					
中学校	生徒数	468	341	482	1,291					
	学級数	16	12	16	44					

※学校基本調査(平成 26 年 5 月 1 日現在), 学級数は通常学級数+特別支援学級

表 2 学校別児童・生徒数, 学級数一覧(平成 26 年 5 月 1 日現在)

◇小学校 (各学年の前列は通常学級 後列は特別支援学級児童数)

学校名		学年別児童数・学級数										計		合計		
		1 年生		2 年生		3 年生		4 年生		5 年生					6 年生	
阿見 小学校	男	37		51	1	40	2	37	2	38		44		247	5	252
	女	33		47	1	42		59		34		46	2	261	3	264
	計	70		98	2	82	2	96	2	72		90	2	508	8	516
	学級数	2		3		3		3		2		3		16	3	19
実穀 小学校	男	8		6		6		6		5		10		41		41
	女	5		7		5		4		14	1	11	1	46	2	48
	計	13		13		11		10		19	1	21	1	87	2	89
	学級数	1		1		1		1		1		1		6	1	7
吉原 小学校	男	3		6		7		5		6	1	7		34	1	35
	女	2		4		6		5		3		11		31		31
	計	5		10		13		10		9	1	18		65	1	66
	学級数	1		1		1		1		1		1		6	1	7
本郷 小学校	男	73		61	1	53	2	47	2	48	6	62	4	344	15	359
	女	69		53	3	57	2	60	1	45	1	50	1	334	8	342
	計	142		114	4	110	4	107	3	93	7	112	5	678	23	701
	学級数	5		4		4		3		3		4		23	4	27
君原 小学校	男	4		6		1		7	1	7		8	2	33	3	36
	女	9		8		9	1	7		5		3		41	1	42
	計	13		14		10	1	14	1	12		11	2	74	4	78
	学級数	1		1		1		1		1		1		6	1	7
舟島 小学校	男	24		30		37		38	1	31		34		194	1	195
	女	26		29	1	20	2	30	1	30		31		166	4	170
	計	50		59	1	57	2	68	2	61		65		360	5	365
	学級数	2		2		2		2		2		2		12	1	13
阿見第一 小学校	男	28		40	2	43	2	41	5	34	2	45	1	231	12	243
	女	32		39	3	42	1	42		53	5	47		255	9	264
	計	60		79	5	85	3	83	5	87	7	92	1	486	21	507
	学級数	2		3		3		3		3		3		17	4	21
阿見第二 小学校	男	23		18	1	20		16	2	16		15	3	108	6	114
	女	14		16	1	16		12		17	2	21	1	96	4	100
	計	37		34	2	36		28	2	33	2	36	4	204	10	214
	学級数	2		1		1		1		1		1		7	2	9
計	男	200		218	5	207	6	197	13	185	9	225	10	1,232	43	1,275
	女	190		203	9	197	6	219	2	201	9	220	5	1,230	31	1,261
	計	390		421	14	404	12	416	15	386	18	445	15	2,462	74	2,536
	学級数	16		16		16		15		14		16		93	17	110
		1~3年児童数					4~6年児童数					1,295				

◇中学校 (各学年の前列は通常学級 後列は特別支援学級生徒数)

学校名		学年別生徒数・学級数						計		合計		小 中 計		合計				
		1 年生		2 年生		3 年生												
阿見 中学校	男	80	3	71	1	87	4	238	8	246	男	1,877	60	1,937				
	女	72		67	1	82		221	1	222					女	1,851	39	1,890
	計	152	3	138	2	169	4	459	9	468					計	3,728	99	3,827
	学級数	5		4		5		14	2	16					学級数	130	24	154
朝日 中学校	男	55	1	54		58	2	167	3	170								
	女	58		54		59		171		171								
	計	113	1	108		117	2	338	3	341								
	学級数	4		3		3		10	2	12								
竹来 中学校	男	87	3	83	1	70	2	240	6	246								
	女	81	2	77	1	71	4	229	7	236								
	計	168	5	160	2	141	6	469	13	482								
	学級数	5		4		4		13	3	16								
計	男	222	7	208	2	215	8	645	17	662								
	女	211	2	198	2	212	4	621	8	629								
	計	433	9	406	4	427	12	1,266	25	1,291								
	学級数	14		11		12		37	7	44								

表3 学校別児童・学級数，就学前児童数（平成26年5月1日現在）

◇小学校

学校名		学年別児童・学級数（0歳～5歳：平成26年4月1日現在）											
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
阿見小学校	男	43	34	35	31	45	44	37	52	42	39	38	44
	女	29	36	42	39	36	39	33	48	42	59	34	48
	計	72	70	77	70	81	83	70	100	84	98	72	92
	学級数	3	2	3	2	3	3	2	3	3	3	2	3
実穀小学校	男	10	14	5	13	3	10	8	6	6	6	5	10
	女	3	10	11	10	10	10	5	7	5	4	15	12
	計	13	24	16	23	13	20	13	13	11	10	20	22
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
吉原小学校	男	6	3	6	3	3	4	3	6	7	5	7	7
	女	4		2	5	4	5	2	4	6	5	3	11
	計	10	3	8	8	7	9	5	10	13	10	10	18
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
本郷小学校	男	72	74	73	71	100	74	73	62	55	49	54	66
	女	70	78	76	81	82	95	69	56	59	61	46	51
	計	142	152	149	152	182	169	142	118	114	110	100	117
	学級数	5	5	5	5	6	5	5	4	4	3	3	4
君原小学校	男	3	2	5	6	5	6	4	6	1	8	7	10
	女	3	5	5	3	13	6	9	8	10	7	5	3
	計	6	7	10	9	18	12	13	14	11	15	12	13
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
舟島小学校	男	12	15	6	16	18	20	24	30	37	39	31	34
	女	13	18	8	29	14	16	26	30	22	31	30	31
	計	25	33	14	45	32	36	50	60	59	70	61	65
	学級数	1	1	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2
阿見第一小学校	男	31	36	41	31	43	33	28	42	45	46	36	46
	女	33	32	35	35	36	39	32	42	43	42	58	47
	計	64	68	76	66	79	72	60	84	88	88	94	93
	学級数	2	2	3	2	3	3	2	3	3	3	3	3
阿見第二小学校	男	15	12	17	18	18	16	23	19	20	18	16	18
	女	11	17	10	14	17	19	14	17	16	12	19	22
	計	26	29	27	32	35	35	37	36	36	30	35	40
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1
計	男	192	190	188	189	235	207	200	223	213	210	194	235
	女	166	196	189	216	212	229	190	212	203	221	210	225
	計	358	386	377	405	447	436	390	435	416	431	404	460
	学級数	15	14	16	15	17	17	16	16	16	15	14	16

◇中学校

学校名		学年別児童・学級数（0歳～5歳：平成26年4月1日現在）											
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
阿見中学校	男	64	49	58	52	66	64	63	77	69	62	61	69
	女	44	53	54	58	57	63	49	69	64	76	56	81
	計	108	102	112	110	123	127	112	146	133	138	117	150
	学級数	4	3	4	4	4	4	4	5	4	4	4	5
朝日中学校	男	82	88	78	84	103	84	81	68	61	55	59	76
	女	73	88	87	91	92	105	74	63	64	65	61	63
	計	155	176	165	175	195	189	155	131	125	120	120	139
	学級数	5	5	5	5	6	6	5	4	4	4	4	4
竹来中学校	男	46	53	52	53	66	59	56	78	83	93	74	90
	女	49	55	48	67	63	61	67	80	75	80	93	81
	計	95	108	100	120	129	120	123	158	158	173	167	171
	学級数	3	4	3	4	4	4	4	5	5	5	5	5
計	男	192	190	188	189	235	207	200	223	213	210	194	235
	女	166	196	189	216	212	229	190	212	203	221	210	225
	計	358	386	377	405	447	436	390	435	416	431	404	460
	学級数	12	12	12	13	14	14	13	14	13	13	13	14

表4 町立学校の概要(平成26年5月1日現在)

		小学校8校							中学校3校			
		阿見 小学校	実穀 小学校	吉原 小学校	本郷 小学校	君原 小学校	舟島 小学校	阿見第一 小学校	阿見第二 小学校	阿見 中学校	朝日 中学校	竹来 中学校
開校		明治43年	明治34年	明治12年	明治35年	明治10年	明治13年	昭和51年	昭和59年	昭和22年	昭和55年	昭和61年
所在地		中央二丁目 1番5号	大字実穀 1,285番地	大字吉原 614番地	大字荒川本郷 1400番地	大字塙 145番地	大字島津 3928番地	岡崎三丁目 19番地	大字阿見 4988番地	中央一丁目 2番1号	大字荒川本郷 1855番地1	大字竹来 400番地1
通学区域		中郷西 北 宿 西方 中央東 中央西 中央南 中央北 鈴木 三区上 三区下 富士団地	実穀 寺子 上小池 下小池 上長 筑見	上吉原 中吉原 下吉原 新山 福田 大砂	住吉 二区北 二区南 一区 上本郷 下本郷 本郷 シンワ 中根	君島 大形 石川 塙 追原 上条 飯倉 飯倉二区	上島津 下島津 南島津 掛馬 竹来 南平台一丁目 南平台二丁目 南平台三丁目	立ノ越 青宿 新町 廻戸 大室 曙東 曙南 霞台 岡崎 中郷東 白鷺団地 レイクサイドタウン	阿見台 西郷 一区南 一区北 上郷	阿見小校区 吉原小校区 阿見第二小校区	本郷小校区 実穀小校区	阿見第一小校区 舟島小校区 君原小校区
施設 規模	敷地面積	33,272㎡	15,933㎡	11,387㎡	13,341㎡	13,870㎡	29,218㎡	30,978㎡	28,805㎡	45,810㎡	36,927㎡	40,416㎡
	校舎面積	4,874㎡	3,132㎡	2,205㎡	3,529㎡	2,236㎡	4,300㎡	5,229㎡	3,916㎡	4,512㎡	4,589㎡	7,612㎡
	屋内運動場床面積	1,300㎡	709㎡	709㎡	782㎡	707㎡	708㎡	1,043㎡	1,019㎡	2,136㎡	1,333㎡	1,449㎡
	普通教室数	26室	13室	7室	21室	7室	13室	24室	14室	19室	14室	20室
主な施設整備事業 (年度)		S43~45 校舎1~3期 S50~52 特別教室棟 H元~2 校舎防音改造 H22 耐震補強	S51~52 校舎 S58 特別教室棟	S46 校舎 S56 特別教室棟	S47 校舎1期 S49~50 校舎2期 S56 校舎増築 H14 防水改修 H25 プレハブ校舎増築	S53 校舎 H25 耐震補強	S46 校舎 S54 特別教室棟 H10 校舎改修 H23 体育館耐震補強	S51~52 校舎1~3期 H6 外装改修 H25 耐震補強	S57~58 校舎	S40~42 校舎1~3期 S62~63 校舎防音改造 H22 耐震補強	S54~55 校舎 H5 普通棟外装改修 H6 特別棟外装改修 H24 耐震補強	S59~60 校舎 H9 校舎増築
平成 二六 年	児童・生徒数	516人	89人	66人	701人	78人	365人	507人	214人	468人	341人	482人
	通常学級数	16学級	6学級	6学級	23学級	6学級	12学級	17学級	7学級	14学級	10学級	13学級
	特別支援学級数	3学級	1学級	1学級	4学級	1学級	1学級	4学級	2学級	2学級	2学級	3学級

図2 町立学校の配置

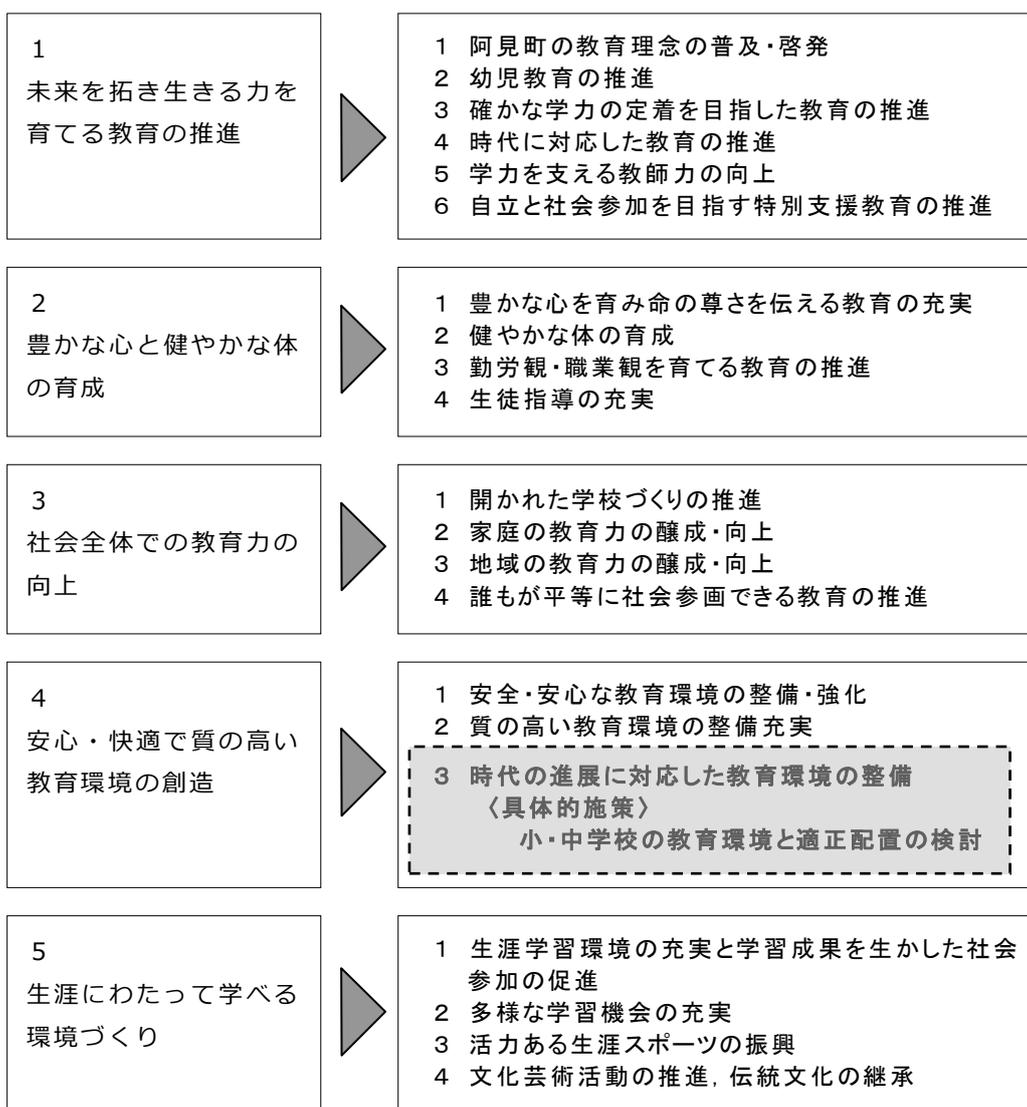


3. 阿見町教育振興基本計画

阿見町では、学校基本法第 17 条第 2 項にもとづき、本町における教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画として、「阿見町教育振興基本計画」（平成 25～34 年度）を策定しています。

この計画では、“学びあい 支えあい 共に輝くひとづくり”を基本理念に掲げるとともに、基本方向として5つの施策の柱を設定しています。学校再編については、施策の柱「4 安心・快適で質の高い教育環境の創造」の中で小・中学校の適正配置の検討を重点事項として、児童・生徒が集団の中で切磋琢磨しながら成長できる環境の整備を目指すとしています。

図 3 阿見町教育振興基本計画の体系

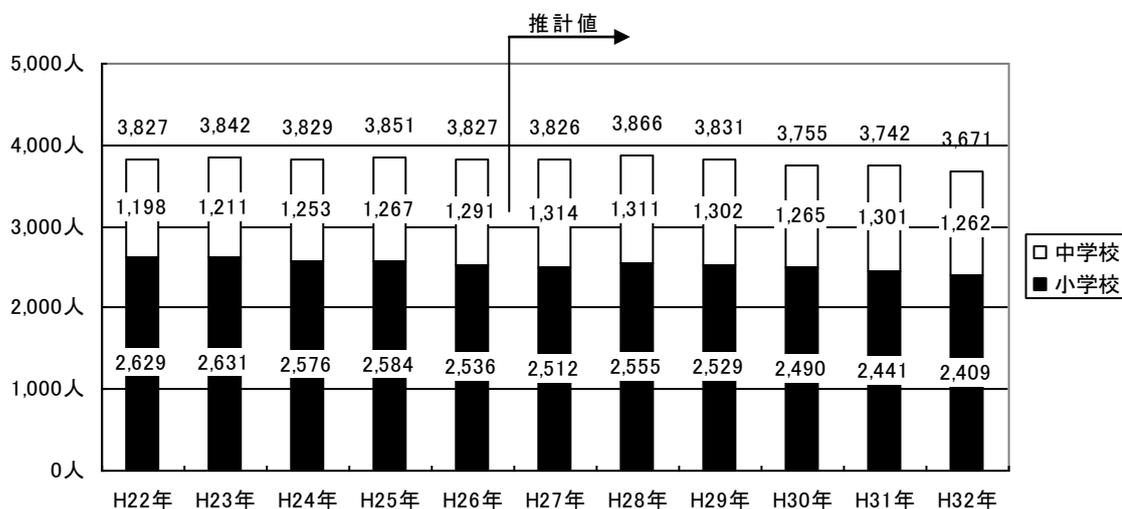


4. 児童・生徒数の将来推計

平成26年4月1日現在の住民基本台帳における0～5歳児、平成26年5月1日現在の児童・生徒が翌年にそのままの人数で年齢・学年が1つ上がる（小中学校への就学も含む）と仮定した場合、平成32年の児童数は平成26年の2,536人から127人減の2,409人に、生徒数は平成26年の1,291人から80人減の1,262人になることが予想されます。

小学校別でみると、本郷小は今後も児童数が増加する一方、他の学校は減少やほぼ横ばいで推移する結果となっています。

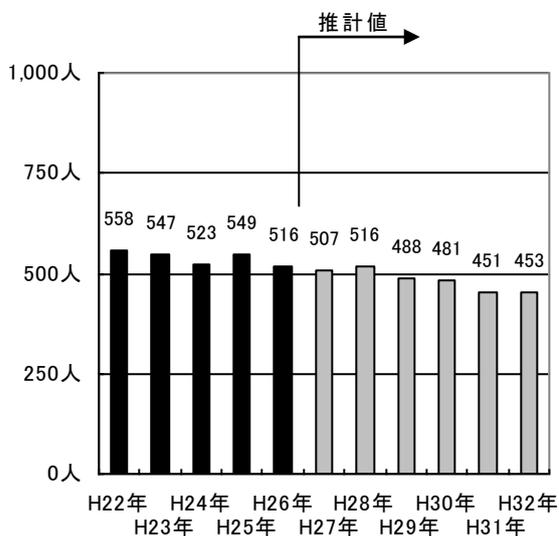
図3 児童・生徒数の推計



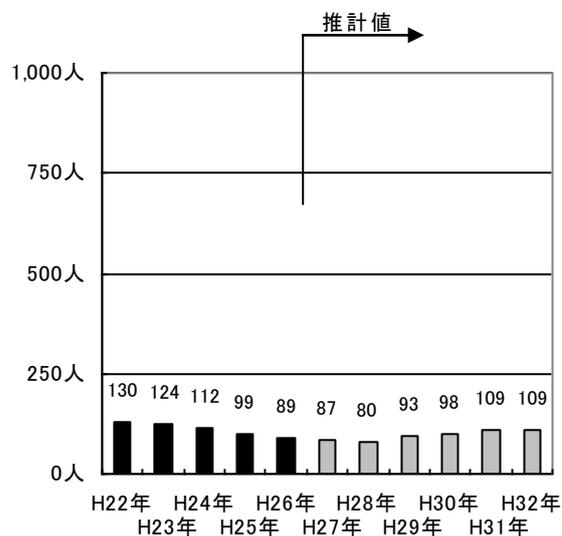
※H22～26年は学校基本調査(各年5月1日現在)の実績値

図4 学校別児童数の推計

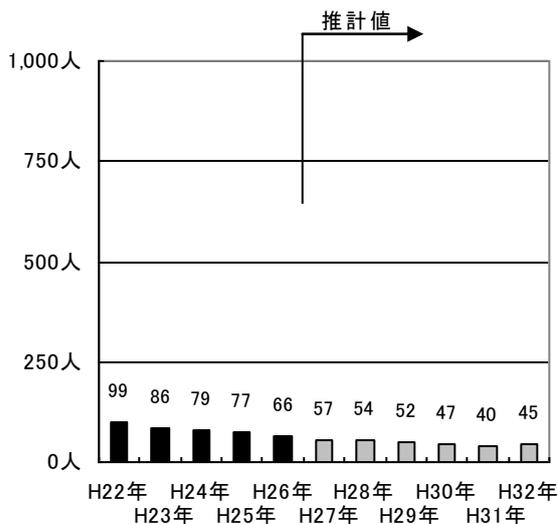
① 阿見小学校



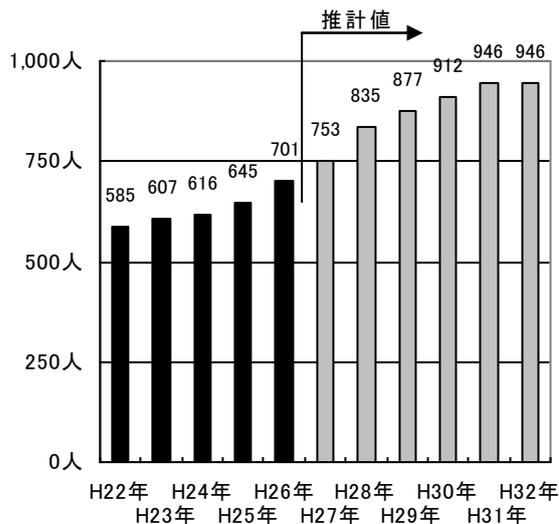
② 実穀小学校



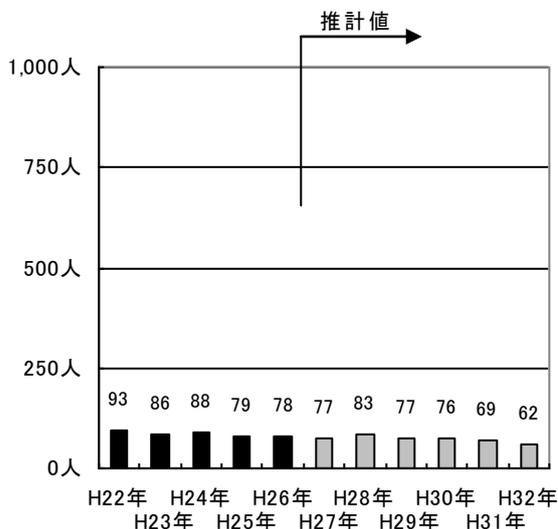
③ 吉原小学校



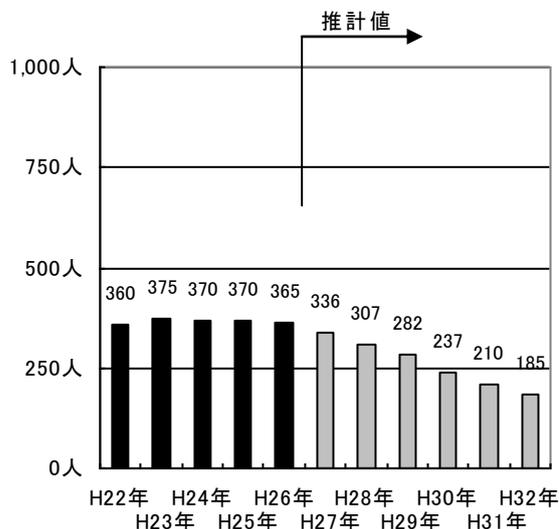
④ 本郷小学校



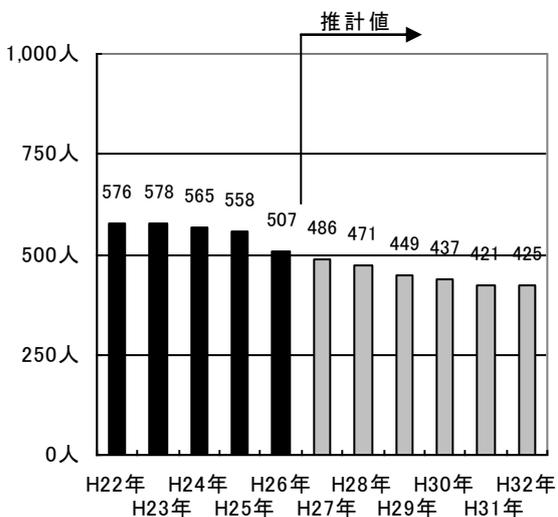
⑤ 君原小学校



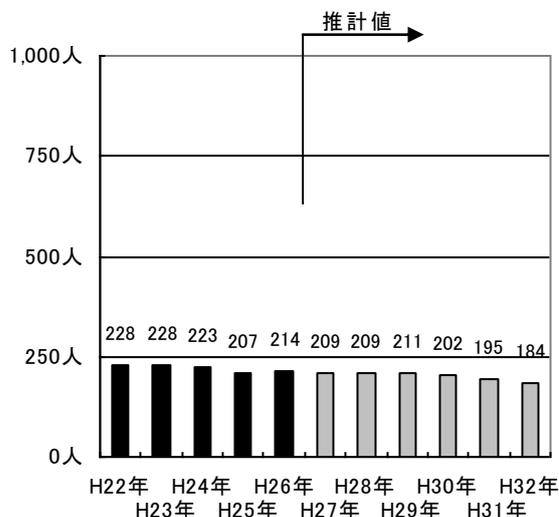
⑥ 舟島小学校



⑦ 阿見第一小学校



⑧ 阿見第二小学校



5. 町立学校再編に関する住民意向

学校再編に対する住民意向を把握するために、就学前児童と小学生の保護者、小学6年生及び中学1年生を対象としたアンケート調査を実施しました。

また、地域や保護者から学校再編に関するさまざまな意見を把握するために、小学校区を単位に意見交換会を開催しました。

表5 保護者を対象としたアンケート調査の実施概要

調査対象	町内の幼稚園，保育所・保育園に通園，または小学校に就学している児童の保護者全員		
調査方法	幼稚園，保育所・保育園，小学校を通じて調査票を配布・回収		
実施時期	平成25年7月		
調査票配布数	3,811 (100.0%)		
回収票数	3,131 (82.2%)		
	有効票数	3,129 (82.1%)	
	無効票数	2 -	
	白票	2 -	

表6 児童・生徒を対象としたアンケート調査の実施概要

調査対象	町内の小学6年生，中学1年生		
調査方法	各小中学校「朝の会」の時間に担任の教員が調査を実施		
実施時期	平成26年2月		
	小学6年生	中学1年生	合計
調査票配布数	465 (100.0%)	406 (100.0%)	871 (100.0%)
回収票数	438 (94.2%)	381 (93.8%)	819 (94.0%)
有効票数	438 (94.2%)	381 (93.8%)	819 (94.0%)

表7 意見交換会の開催概要

小学校区	日時	会場	参加者数
阿見小	平成25年10月1日(火) 19:00~20:00	阿見中央公民館	9人
実穀小	平成25年10月2日(水) 19:00~20:30	実穀小学校	25人
吉原小	平成25年10月3日(木) 19:00~20:25	吉原小学校	41人
本郷小	平成25年10月4日(金) 19:00~20:40	本郷ふれあいセンター	47人
君原小	平成25年10月5日(土) 14:00~15:30	君原公民館	25人
舟島小	平成25年10月5日(土) 19:00~20:10	舟島ふれあいセンター	6人
阿見第一小	平成25年10月6日(日) 14:00~15:00	かすみ公民館	3人
阿見第二小	平成25年10月6日(日) 19:00~20:40	阿見中央公民館	11人
計			167人

(1) 保護者を対象としたアンケート調査の結果

① 小学校の規模について

1学年あたりの学級数は、「2～3学級がよい」との意見が全体の7割（71.2%）を占めています。その理由としては、「たくさんの友達ができる」（63.3%）、「さまざまな個性の友達と触れ合う」（54.5%）が半数以上となっています。

現状、1学年1学級となっている実穀小、吉原小、君原小では、「1学級がよい」との意見が最大で47.0%（君原小）ありますが、3校とも「2～3学級がよい」との意見も多くみられます。

1学級あたりの児童数は、20～30人程度が適正だと思う意見が全体の95.1%を占めています。

図6 「小学校1学年あたりのクラス数は、どの程度が望ましいと思いますか」

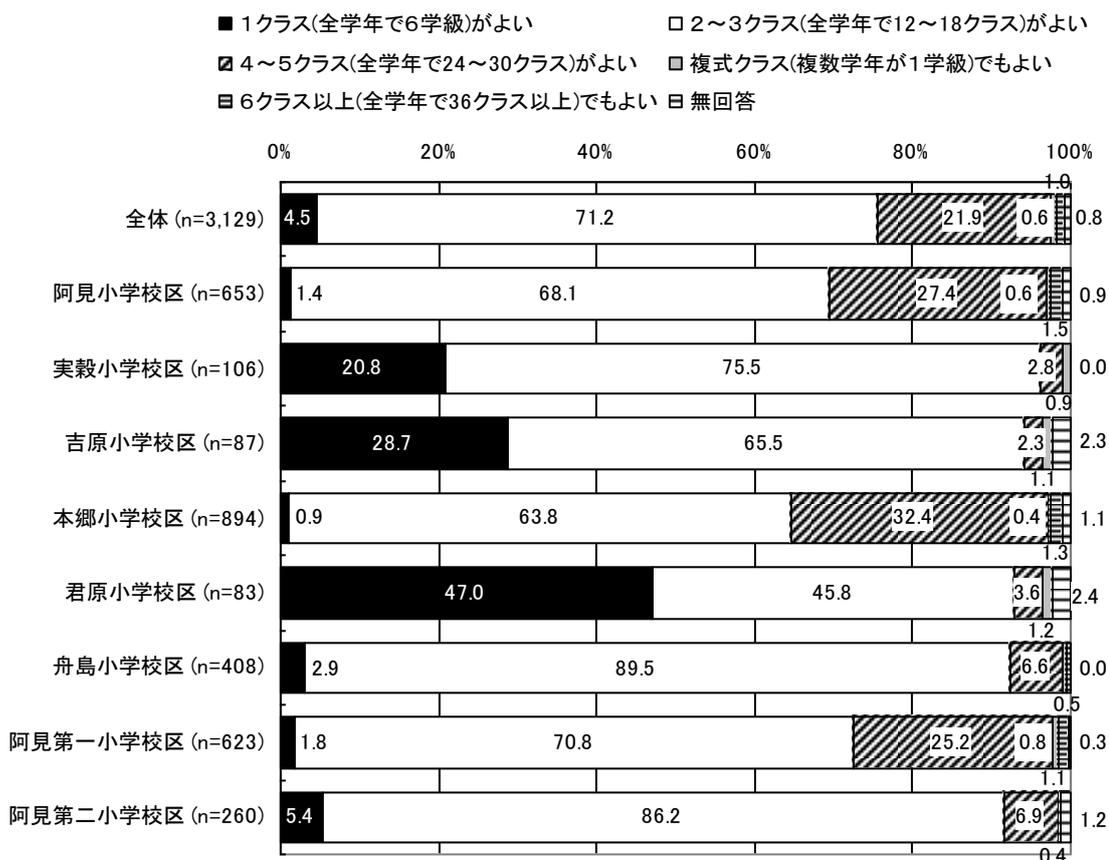
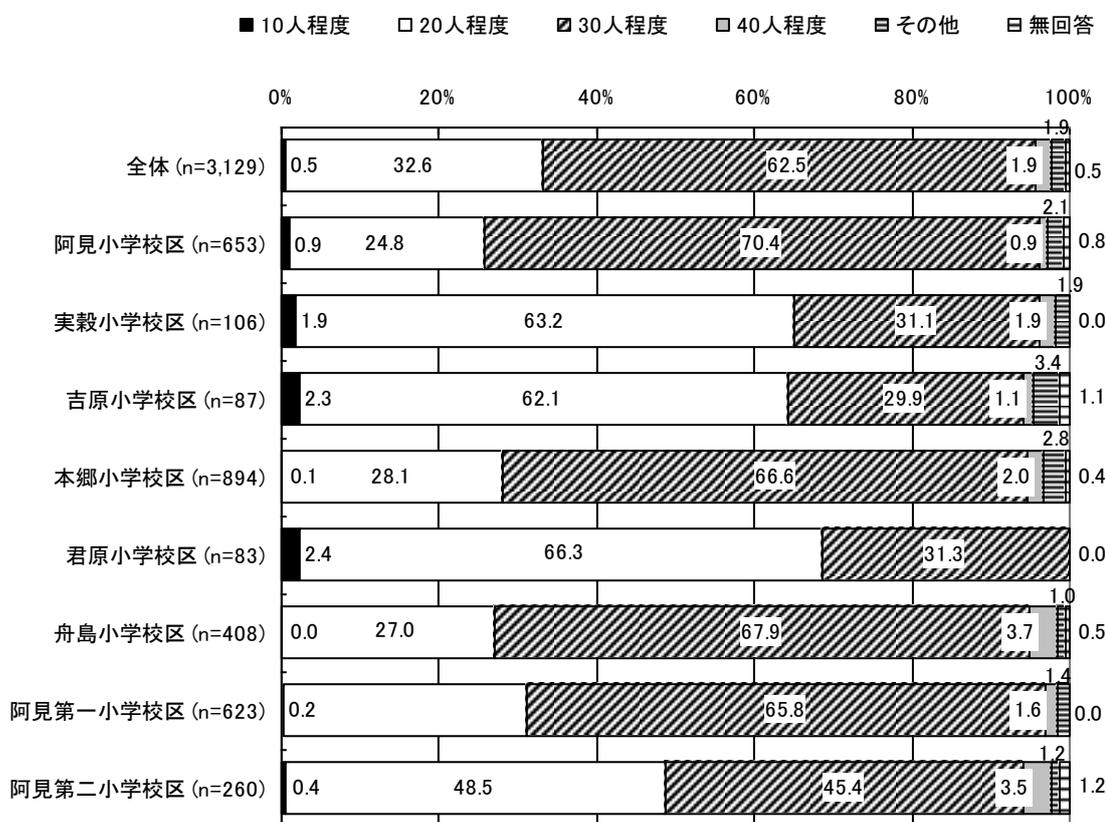


表 8 「そう思われる理由は何ですか」

単位 上段(人) 下段(%)	一人ひとりに目が 行き届く	たくさんの友達が できる	さまざまな個性の 友達と触れ合う	ゆとりのある教育 が受けられる	協調性を養う機会 に恵まれる	学校全体に活気が あり行事が盛大	学校の行事での活躍 の場が豊富	同じクラスで互いに 親密になれる	学年を越えた友達 が得意やすい	その他	無回答
全体 (n=3,129)	1,432 45.8	1,812 57.9	1,624 51.9	496 15.9	893 28.5	912 29.1	224 7.2	112 3.6	159 5.1	85 2.7	60 1.9
1クラス (全学年で6学級) がよい (n=141)	117 83.0	9 6.4	16 11.3	46 32.6	6 4.3	9 6.4	29 20.6	59 41.8	49 34.8	4 2.8	5 3.5
2~3クラス (全学年で12~18クラス) がよい (n=2,227)	942 42.3	1,409 63.3	1,213 54.5	314 14.1	693 31.1	659 29.6	142 6.4	46 2.1	87 3.9	52 2.3	27 1.2
4~5クラス (全学年で24~30クラス) がよい (n=685)	339 49.5	368 53.7	358 52.3	123 18.0	176 25.7	231 33.7	43 6.3	6 0.9	7 1.0	23 3.4	20 2.9
複式クラス (複数学年が1学級) でもよい (n=19)	5 26.3	2 10.5	13 68.4	1 5.3	8 42.1	3 15.8	1 5.3	1 5.3	15 78.9	2 10.5	0 0.0
6クラス以上 (全学年で36クラス以上) でもよい (n=32)	21 65.6	15 46.9	14 43.8	10 31.3	6 18.8	6 18.8	5 15.6	0 0.0	1 3.1	3 9.4	0 0.0

図 7 「小学校 1 学級あたりの児童数は、何人くらいが適正だと思いますか」

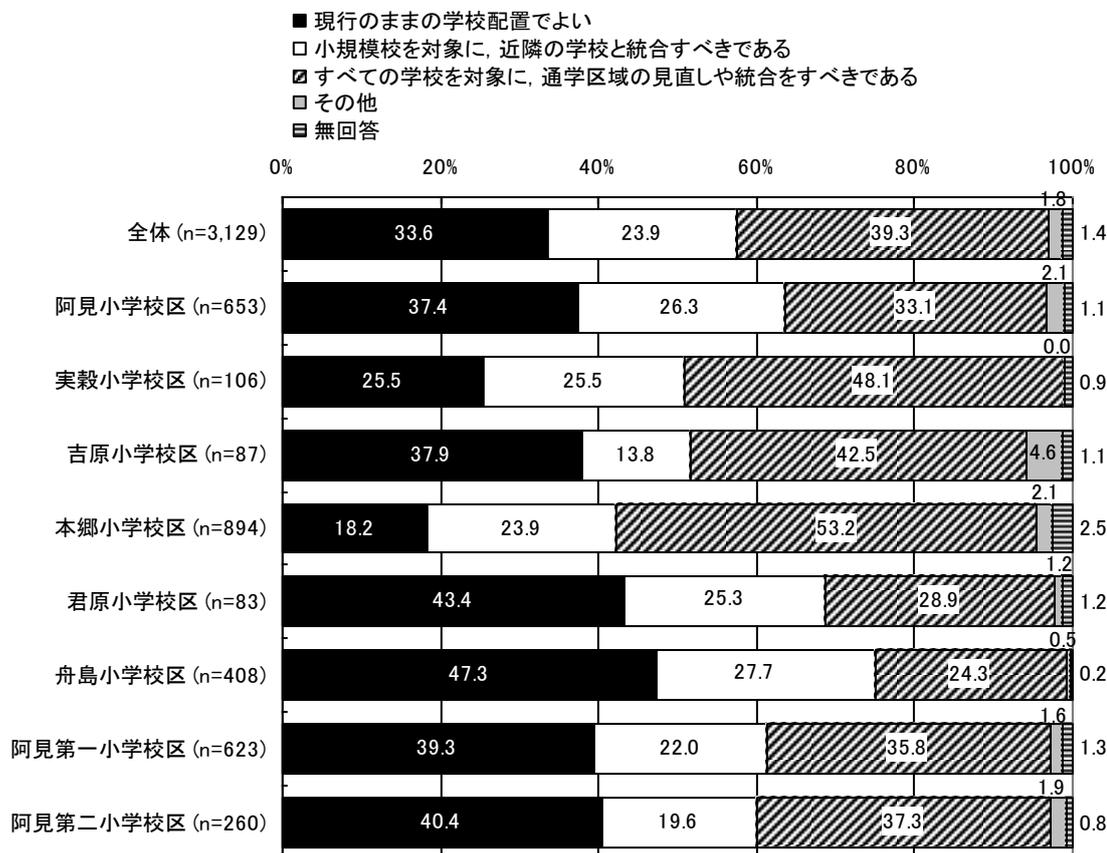


② 小学校の小規模化への対応について

全体では、「すべての学校を対象に、通学区域の見直しや統合をすべきである」が39.3%、「現行のままの学校配置でよい」が33.6%、「小規模校を対象に、近隣の学校と統合すべきである」が23.9%となっており、回答に大きな差はみられません。

君原小と舟島小では、「現行のままの学校配置でよい」との意見が4割を超えていますが、「すべての学校を～」や「小規模校を～」を合わせた“何らかの再編が必要”との意見は、君原小が54.2%、舟島小が52.0%となり、半数を超えています。

図8 「児童数の減少による学校の小規模化への対応で、
あなたの考えに一番近いものはどれですか」

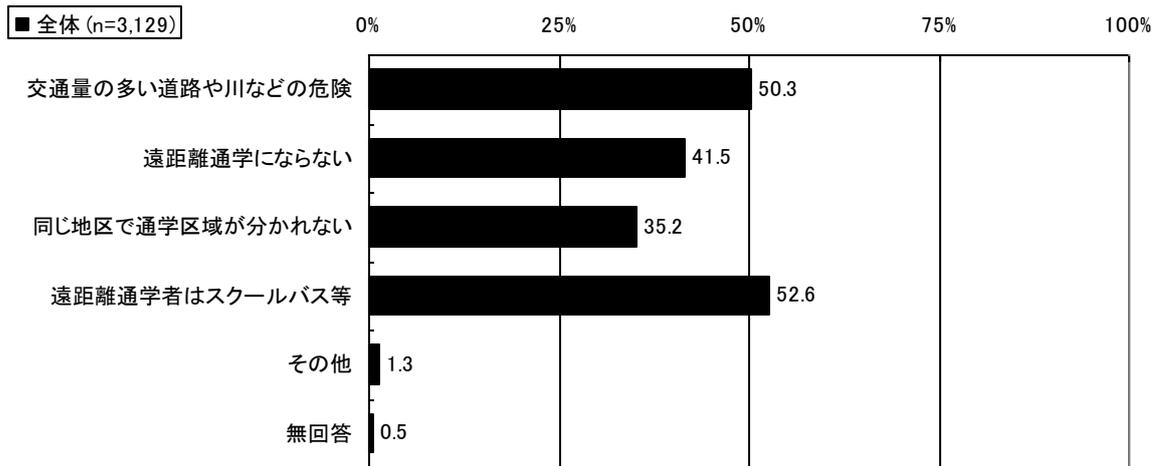


③ 通学区域を変更する場合の配慮について

「遠距離通学者はスクールバス等」との意見が52.6%で最も多く、次いで「交通量の多い道路や川などの危険」(50.3%)、「遠距離通学にならない」(41.5%)、「同じ地区で通学区域が分かれぬ」(35.2%)といった回答が続いています。

図9 「小中学校の通学区域を変更する場合に、どのようなことに

配慮すべきだと思いますか」



④ 自由意見 (学校再編に関する主な意見)

- 新たに小学校を整備してほしい。(159件)
- 小規模校は統合してもよいのではないか。(85件)
- 再編により遠距離通学となる児童への対応(スクールバス等)が必要である。(50件)
- 1学級の児童数が多くなりすぎるのは問題である。教員の人数を増やしてほしい。(49件)
- 小規模校や大規模校の再編だけでなく、町全体で再編を検討すべき。(43件)
- 現状のままでよいと思う。(43件)
- 通う学校を選べるとよいと思う。(32件)

(2) 児童・生徒を対象としたアンケート調査の結果

① 1 学年あたりの学級数について

小学 6 年生の全体では、「ちょうどよいと思う」が 8 割（79.2%）を占めています
が、1 学年 1 学級となっている実穀小，吉原小，阿見第二小では、「もっと多ければ
よいと思う」との意見が 3 割以上みられます。中学 1 年生の回答をみても，学級数
の少ない小学校を卒業した生徒は「もっと多ければよかったと思う」との意向が高
くなっています。

「もっと多ければよい（よかった）と思う」理由をみると、「クラス替えでたくさ
んの人と友達になれるから」といった意見は，小学 6 年生では 7 割弱（67.1%），
中学 1 年生では 6 割強（63.8%）を占めています。

図 10 「あなたの学年のクラス数について、どう思いますか」（小学 6 年生）

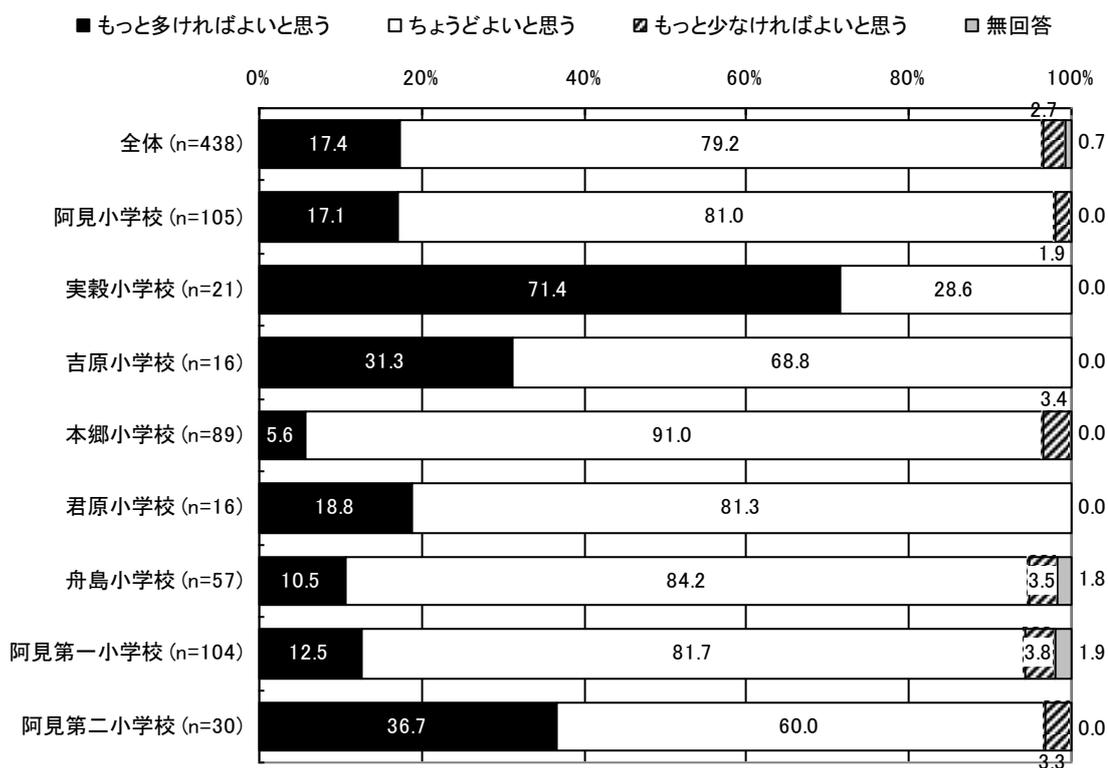


図 11 「卒業した小学校のクラス数について、どう思いますか」(中学1年生)

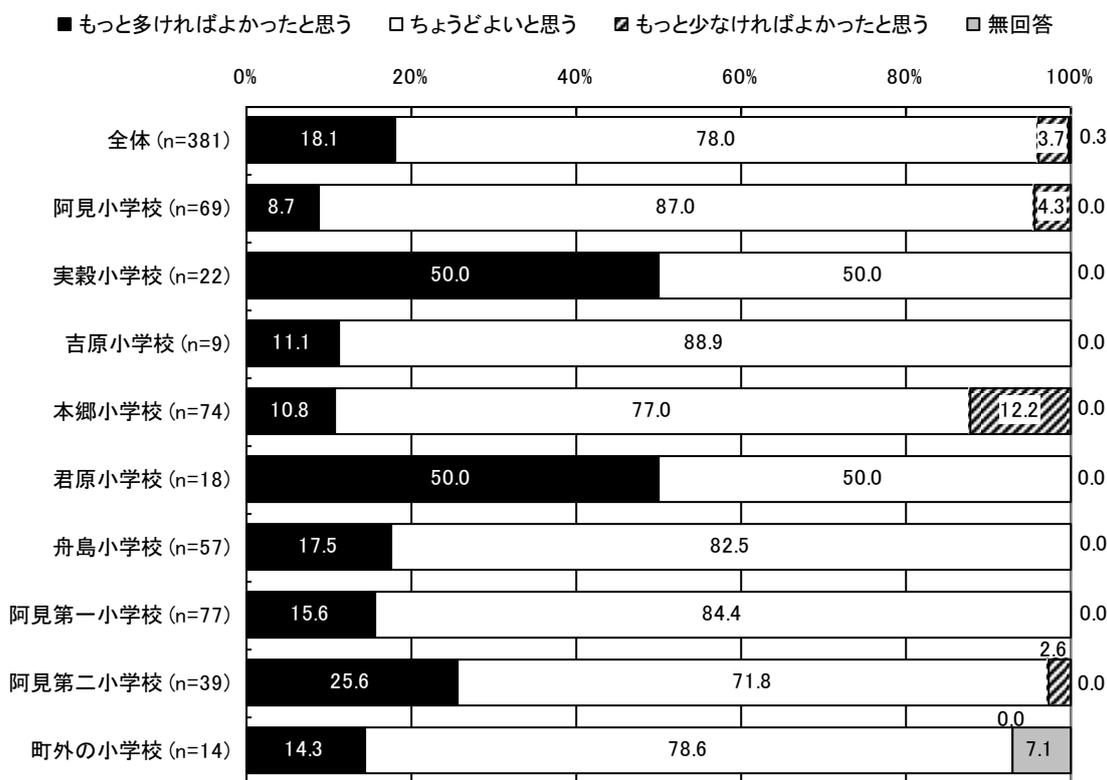


表 9 クラス数に関する意向

	単位 上段(人) 下段(%)	ら の 人 と 友 達 に な れ る か	ク ラ ス 替 え で た く さ ん	と が で き る か ら	み ん な が ま と ま り や す く 友 達 を 深 く 知 る こ と	運 動 会 や 学 習 発 表 会 が 盛 り 上 が る か ら	も み て も ら え る か ら	先 生 が 自 分 の こ と を よ く わ か つ て く れ、 勉 強	運 動 場 や 体 育 館 を 広 く 使 え る か ら	そ の 他	無 回 答				
小学 6 年 生	全体 (n=438)	203	243	133	93	77	28	19	46.3	55.5	30.4	21.2	17.6	6.4	4.3
	もっと多ければよいと思う (n=76)	51	23	17	15	10	10	0	67.1	30.3	22.4	19.7	13.2	13.2	0.0
	ちょうどよいと思う (n=347)	151	214	114	74	64	18	15	43.5	61.7	32.9	21.3	18.4	5.2	4.3
	もっと少なければよいと思う (n=12)	1	6	2	4	3	1	1	8.3	50.0	16.7	33.3	25.0	8.3	8.3
中学 1 年 生	全体 (n=381)	184	193	97	75	91	41	9	48.3	50.7	25.5	19.7	23.9	10.8	2.4
	もっと多ければよかったと思う (n=69)	44	17	16	17	19	8	0	63.8	24.6	23.2	24.6	27.5	11.6	0.0
	ちょうどよいと思う (n=297)	134	171	78	55	67	32	8	45.1	57.6	26.3	18.5	22.6	10.8	2.7
	もっと少なければよかったと思う (n=14)	6	5	3	3	5	1	0	42.9	35.7	21.4	21.4	35.7	7.1	0.0

② 1学級あたりの児童数について

小学6年生の全体では、「ちょうどよいと思う」が8割弱（78.6%）を占めています。実穀小、吉原小、君原小、阿見第二小では、「もっと多ければよいと思う」との意見も高くなっています。

中学1年生でも、全体では「ちょうどよいと思う」が8割（80.1%）を占めていますが、実穀小と君原小を卒業した生徒からは「もっと多ければよかったと思う」との意見が4割を超えています。

図12 「あなたクラスの人数について、どう思いますか」（小学6年生）

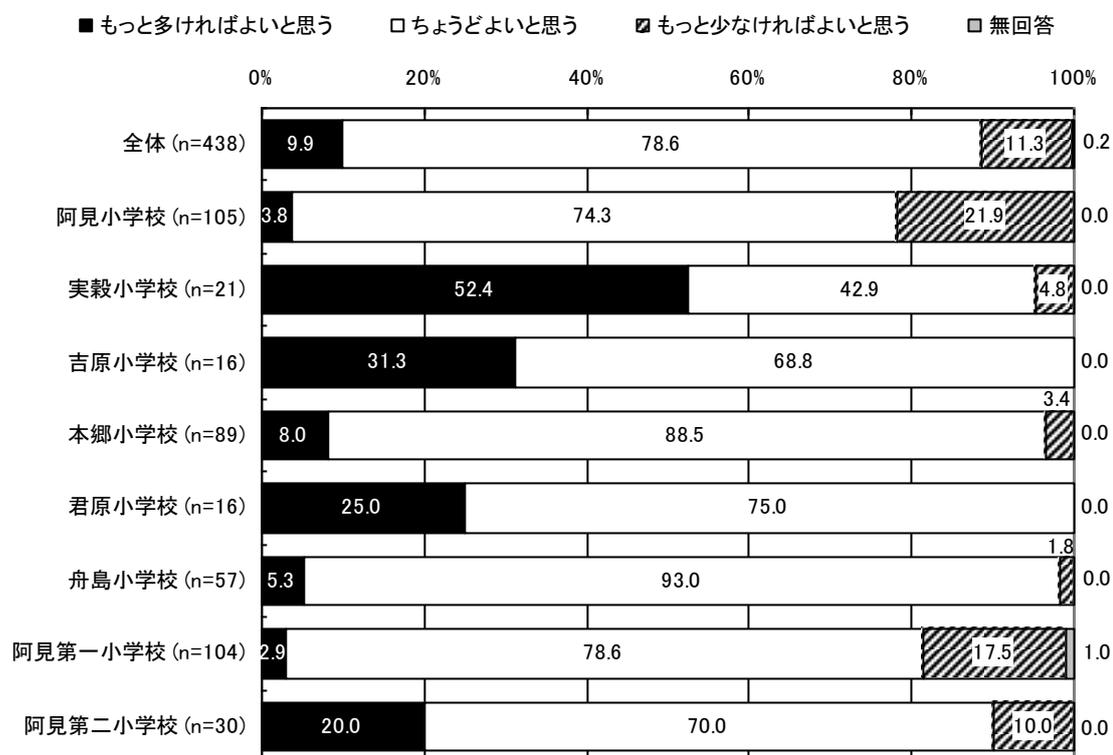
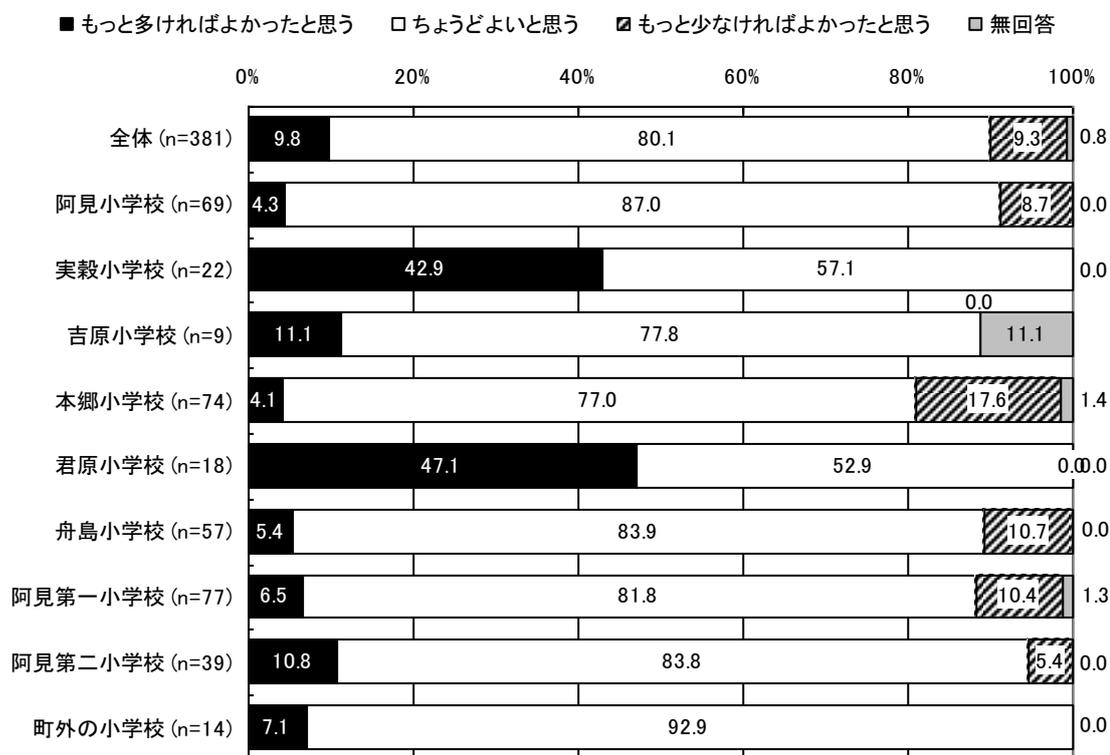


図 13 「卒業した小学校のクラスの人数について、どう思いますか」（中学 1 年生）



③ 通学時間について

小学 6 年生では、どの小学校も「ちょうどよいと思う」が最も多くなっています。その中で実穀小、吉原小、本郷小、君原小は「もっと短いほうがよいと思う」との回答が 4 割前後みられます。中学 1 年生の回答をみても、吉原小、本郷小、君原小を卒業した生徒は「もっと短いほうがよかったと思う」との意見が 4 割程度となっています。

通学時間ごとの意向をみると、小学 6 年生、中学 1 年生ともに通学時間が 30 分を超えると「もっと短いほうがよい(よかった)と思う」との回答が増える傾向がみられます。

図 14 通学時間に関する意向（小学 6 年生）

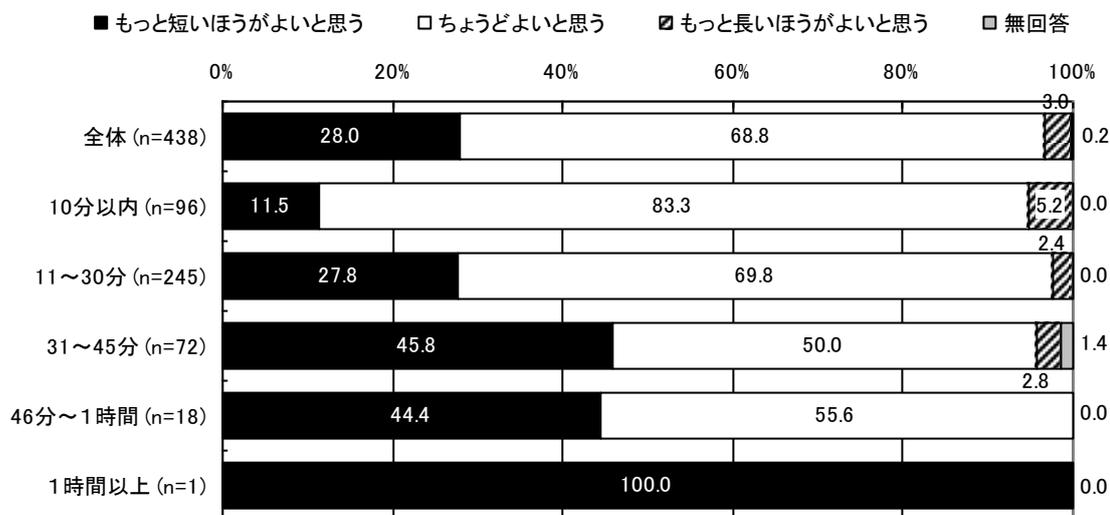
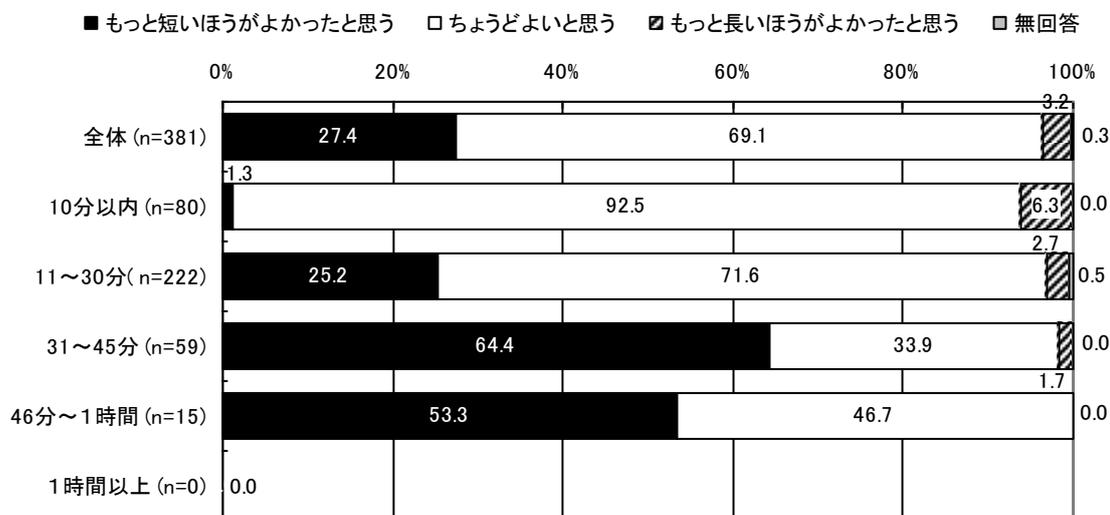


図 15 通学時間に関する意向（中学 1 年生）



(3) 意見交換会の結果

① 学校再編について

- 小規模校では、メリットよりもデメリットの方が多い。
- 子どものことを考えれば、統合してほしい。
- 統合をするならしてもよいと思う。
- 小規模校は教室が空いているのだから、大規模校から来てもらうという発想もあるのではないかな。
- 複式学級になるのは嫌だ。
- 小規模校を統合する場合は、統合先を複数の学校に分けないでほしい。
- 新しい道路が整備され、通学もしやすくなったので再編しやすいと思う。
- 現時点で学校間の交流があるところは、それを踏まえて再編を検討してほしい。
- 兄弟姉妹で別の学校に通うことにならないよう配慮してほしい。
- 再編パターンは中学校も考慮して検討すべきだ。
- 仮設校舎の整備により運動場も狭くなっている。児童数が多すぎることは教育環境としてよくないのではないかな。

② 学校の統合に反対する意見

- 歴史のある学校なので廃校にしてほしくない。
- 再編にあたっては、学区の変更で対応してほしい。
- 学校が無くなる、子どもがいなくなるということは地域が疲弊、衰退化するのと同じである。
- 学校は地域の防災拠点（避難場所）であるとともに、校区単位で住民活動が行われているものもある。学校教育とはまた別な役割もあるので、そうした意見も取り入れた方がよいと思う。

③ 学校再編に対する要望

- 子どもにも意見を聞いた方がよい。
- デメリットについては出来るだけ問題を解消できるように、本当によく地域の人たちの立場に立って検討しなくてはいけない。
- 町民に広く意見を聞く機会を多く設けた方がよい。
- P T A活動に配慮した計画にしてほしい。
- 地域としても色々な可能性があるのだから、どのような再編がいいのか議論しておかないといけない。
- 日本の人口は減少傾向にあるので、新たに住宅地を開発分譲しても入ってくる人がいるのか。
- 学校を新設するよりも、スクールバスの運行に予算を回した方がよい。
- 現在も路線バス代を払って登校しているが、他市町村ではありえない。
- 通学路の安全対策をしてほしい。
- どこの学校に行ってもよいのではないかな。

(4) 住民意向のまとめ

就学前児童と小学生の保護者、小学 6 年生及び中学 1 年生を対象としたアンケート調査と意見交換会の結果から、学校再編に関する住民意向をまとめると次のようになります。

表 10 住民意向のまとめ

1 学年あたりの学級数	<ul style="list-style-type: none"> • 現状以上の学級数を希望する児童は、クラス替えへのニーズが高い。 • 1 学年 2 学級以上を希望する保護者が多い。
1 学級あたりの児童数	<ul style="list-style-type: none"> • 1 学級 20 人前後の学校では、児童数が少ないと感じている児童の割合が高い。 • 1 学級 20～30 人を希望する保護者が多い。
学校再編	<ul style="list-style-type: none"> • 学校再編が必要と考える保護者が多いが、現状のままを希望する意見は全体で 3 割強、小規模校では 4 割程度みられる。 • 小規模校でも子どもへの教育を考え、学校再編を行ってほしいという意見もある。 • 本郷小学校区では、児童数の増加による教育環境への影響を指摘する声が多く、小学校新設への高いニーズがある。
通学区域や通学時間	<ul style="list-style-type: none"> • 通学時間が 30 分を超えると、通学時間が長いと感じる児童・生徒が 4 割以上となる。 • 遠距離通学への配慮として、スクールバス等の運行は不可欠と考える保護者が多い。

6. 学校の適正規模

(1) 学校規模による課題

一般的に小規模校では、きめ細やかな指導や施設・設備が余裕を持って利用できるなどのメリットがある反面、多くの友達の多様なものの見方、考え方を学ぶ機会が少なくなり、学校行事や部活動などに制限が生じる可能性があります。

一方、大規模校では、多くの友達や教職員と出会い交流することにより、人間関係を広げることができ、またさまざまな人との関わりの中で切磋琢磨することで、社会性が育ちやすいなどのメリットがある反面、校外学習の活動内容や安全面などで支障が生じる可能性があります。

表 11 小規模校の一般的なメリット・デメリット

項目	小規模校のメリット	小規模校のデメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりにくい。 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 異学年間の縦の交流が生まれやすい。 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
学校運営面 ・ 財政面	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 学校が一体となって活動しやすい。 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域社会との連携が図りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> P T A 活動等の保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい。

表 12 大規模校の一般的なメリット・デメリット

項目	大規模校のメリット	大規模校のデメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。 ・ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ・ 児童・生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりやすい。 ・ さまざまな種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。 ・ 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ・ 切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。 ・ 学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。 ・ 全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
学校運営面 ・ 財政面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ・ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ・ 校務分掌を組織的に行いやすい。 ・ 子ども一人あたりにかかる経費が小さくなりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員相互の連絡調整が図りづらい。 ・ 特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A 活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。

※ 「国の中央教育審議会初等中等教育分科会の小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会資料」から抜粋

町内で最も学校規模が小さい吉原小学校では、小規模校ならではの取り組みがみられる一方で、いじめ等が起きた場合の対応等でクラス替えができない環境が課題となる可能性も考えられます。町内で最も規模が大きい本郷小では、児童数の増加により特別教室の普通教室への転用や運動場が手狭になるなどの課題が生じています。

表 13 吉原小学校と本郷小学校の状況

吉原小学校 (6学級)	<ul style="list-style-type: none"> • 一人ひとりに目がとどき、個に応じた指導がしやすい。 • 学校行事で一人ひとりが主役になれる機会が多い。 • 複数の学年による縦割り班活動を行い、なるべく多くの人と触れ合う機会を設けている。 • 現状では問題はないが、いじめが起きた場合などにクラス替え等による対応ができない。 • 教職員一人ひとりの役割が多くなるが、学校規模が小さいため、特に問題にはなっていない。
本郷小学校 (20学級)	<ul style="list-style-type: none"> • 登校班が大人数で編成できる。 • 教職員数が多いことから、多様な意見が出やすい。 • 児童数の増加により、家庭科室、図書室、音楽室などの特別教室を普通教室に変えていく必要がある。 • 運動場が手狭になり、運動会等で保護者席が十分に確保できない。 • 養護教員がひとりのため、子どもたち一人ひとりに十分な対応ができない。

〔参考〕学級数による学校規模の分類

	小規模校	標準規模校	大規模校
小学校	11学級以下	12～24学級	25学級以上
中学校	8学級以下	9～18学級	19学級以上

(2) 学校規模等の基準

① 学校規模

◇学校教育法施行規則第 41 条

- 小学校の学級数は 12 学級以上 18 学級以下を標準とする。
(同規則第 79 条により、中学校についてもこの規定を準用)

◇義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第 4 条

適正な学校規模の条件として、学級数は概ね 12 学級から 18 学級までであること。(統合する場合は 24 学級まで)

- 小学校では各学年 2～3 学級
- 中学校においては各学年 4～6 学級

◇公立小・中学校の適正規模について(指針)(県教育委員会 H20 年 4 月)

- 小学校は、クラス替えが可能である各学年 2 学級以上となる 12 学級以上が望ましい。
- 中学校は、クラス替えが可能ですべての教科の担任が配置できる 9 学級以上が望ましい。(国語・社会・数学・理科・英語に複数の教員の配置が可能)

② 学級編制

◇「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」(義務教育標準法) 第 3 条

- 1 学級の児童生徒数の標準を 40 人として各学年の学級数が決まり、学級数に応じて教職員の総数が決定する。

※茨城県教育委員会の特例

平成 26 年度から小学校 1～6 年生全ての学年で、35 人の学級編成となる予定です。

- 複式学級(数学年の児童生徒で 1 学級を編成)の編制基準

※小学校では 2 つの学年で 16 人以下の場合

(第 1 学年の児童を含む学級は 8 人以下)

※中学校では 2 つの学年で 8 人以下の場合

③ 通学区域

◇学校教育法施行令第 5 条第 2 項

「市町村の教育委員会は、当該市町村の設置する小学校又は中学校が 2 校以上ある場合においては、就学予定者の就学すべき小学校又は中学校を指定しなければならない」と規定。

◇義務教育諸学校等の建設費の国庫負担等に関する法律施行令第 4 条第 2 項

通学距離を、小学校にあっては概ね 4 km 以内、中学校にあっては概ね 6 km 以内と規定。

7. 阿見町立学校再編の基本方針

(1) 学校規模の基本的な考え方

学校教育には、児童・生徒がさまざまな人間関係を体験することにより、豊かな人間性や社会性、思いやりのある心を育てていく役割が強く期待されていることもあり、小中学校の規模は、教育活動や児童・生徒の学校生活を左右する重要な要件のひとつであると考えられます。

このことから、子どもたちにとってより良い教育環境の充実を目指して、学校施設・学校経営・地域との関係の観点、また、国や県の基準などを参考に、阿見町の望ましい学校規模の基本的な考え方を定めます。

(2) 望ましい学校規模

① 小学校

児童にとって、クラス替えを通じてさまざまな人間関係が生まれ、そこから多様な価値観・学習意欲・よい意味でのライバル意識が芽生えるための環境整備が必要です。

また、学校教育活動では、総合的な学習の時間等で課題別活動に幅を持たせること、体育的・文化的学校行事において学級ごとに取り組めるなど、集団としての教育も考慮した教育活動を実践していくことが重要です。

さらに教員にとっても、ひとつの学年に複数の学級があることは教員相互の研修が可能となるほか、適正な校務分掌を図ることが可能となります。

これらを踏まえ、小学校における望ましい学校規模を次のとおりとします。

・ 1 学年 2 学級以上（概ね 1 学年 2～4 学級）※学校全体では 12～24 学級

② 中学校

中学校は教科担任制であることから、各教科に専門の教員を確保することが必要となります。同じ教科を担当する教員を複数配置することにより、多様な学習・指導形態が取りやすく、指導方法の向上を図ることができます。

これらを踏まえ、中学校における望ましい学校規模を次のとおりとします。

・1学年3学級以上（概ね1学年3～6学級）※学校全体では9～18学級

(3) 適正配置の基本的な考え方

児童・生徒数の減少が予想される中、安定的に望ましい学校規模が確保できない小学校については、統合を視野に入れた段階的な対応が必要となっています。

一方、児童数が増加している本郷小学校区においては、通学区域の検討や新小学校建設へ向けた取り組みを進めています。

学校の適正配置にあたっては、これまで学校が地域で果たしてきた役割や地域の事情を十分に配慮した上で、保護者、地域住民、学校関係者などに対し、学級数等の将来推計、学校の小規模化による問題点等について説明するとともに、十分に協議するなど、適正配置の必要性に関する共通理解と協力を得て進めることが必要です。

これらを踏まえ、学校の適正配置の基本的な考え方を次のとおりとします。

① 小学校

- ・本郷地区に新設する小学校を含めて、町全域の配置を検討する。
- ・望ましい学校規模に満たない学校は、遠距離通学の配慮をして、隣接校との統合を検討する。

② 中学校

- ・望ましい学校規模であるため、現状のままとする。

(4) 適正規模・適正配置を進めるにあたっての配慮

学校規模や適正配置を進めるためには、保護者や地域住民の方、学校、教育委員会が意見交換・情報交換しながら、全ての子どもたちにとって可能な限り良好な教育環境を確保するために検討していくことが重要です。こうしたことから、次の事項に配慮することとします。

- ① 将来のあるべき姿を視野に、学校施設の充実や通学路の安全確保に伴う施設整備など、計画的な事業実施と併せて、適正配置に努めること。
- ② 通学区域の変更にあたっては、通学距離・通学時間、通学の安全確保、主要幹線道路や河川等の地理的条件、地域とのつながりなどを考慮すること。
- ③ 遠距離通学となる場合は、スクールバスの運行など、通学手段を確保すること。
- ④ 諸般の事情により通学区域に不都合が生じる場合にあっては、保護者等の意向も尊重しながら、指定校の弾力的な運用についても検討すること。
- ⑤ 適正配置に伴う跡地等については、地域及び関係機関と十分な協議を行い有効的な利活用を検討すること。
- ⑥ 複式学級となることが見込まれる学校については、その課題等を十分に検討し、児童の良好な教育環境が確保されるよう、平成26年度より早急に対応すること。

(5) 今後の進め方

平成26年度は、保護者、地域住民の方などに対し説明会を開催し、基本方針を説明したうえご意見をお伺いします。平成27年度以降は、統合の対象となる小学校・地区において、統合委員会等を設置し関係者との意見交換をしながら、合意形成を図っていきます。